



# [財]日本太鼓連盟

## NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2006年10月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

財団法人日本太鼓連盟 理事長 塩見 和子

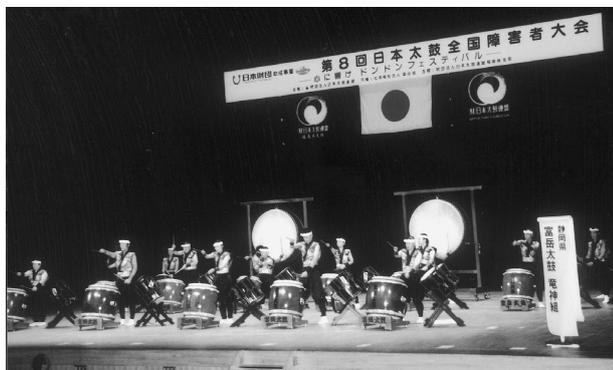
Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL:http://www.nippon-taiko.or.jp Email:info@nippon-taiko.or.jp

会報



## 第8回日本太鼓全国障害者大会 ～心に響け！ドンドンフェスティバル～ 福島県郡山市で開催



(富岳太鼓)

2006年9月10日(日)、第8回日本太鼓全国障害者大会が、福島県郡山市・郡山市民文化センターにおいて開催されました。

この大会は日本財団の助成事業として行われ、(財)日本太鼓連盟主催、社会福祉法人富岳会共催、福島県支部主管のもと、厚生労働省、文化庁のほか、地元の福島県、福島県教育委員会、郡山市、郡山市教育委員会等の後援をいただいて実施いたしました。

日本太鼓は、障害者の療育に効用があることが立証されており、社会福祉法人富岳会(山内令子理事長)においては、30年前から補助セラピーや自己表現の手段として取り入れてきました。1998年に富岳会主催により「第1回全国障害者太鼓演奏会」が静岡県内の団体を集め開催され、より多くの団体にも出演の機会をとの声をいただき、1999年より当財団との共催で、全国大会として実施しております。今回は療育的な見地から日本太鼓に積極的に取り組んでいる15チームに、初出場4チームを加え、全19チームが一同に会し、それぞれの太鼓演奏を披露しました。

各団体の演奏の合間には、障害者の皆さんが自らの体験について発表し、それぞれの太鼓やチームへ

の想いを語ってくれました。いずれのチームも日頃の練習の成果を存分に発揮され、演奏レベルも非常に高いチームばかりでした。また全員が、心から太鼓を楽しんでいる様子が印象的でした。来場した1,200名を超える観客の皆さんも惜しみない拍手を送っていました。公演終了後には、ビデオ購入を求めお客様や、思わず涙するお客様の姿も見られました。また、会場2階ロビーには、富岳会の皆さんが描いた素晴らしい絵画が展示されていました。

### <出演団体> 出演順 19 団体

1. 糸口太鼓 (大分県)
  - ☆ 2. あだたら和太鼓 (なごみだいこ) (福島県)
  3. 石川県立ろう学校風神太鼓 (石川県)
  - ☆ 4. 一太鼓 (いずだいこ) (福島県)
  5. 金谷大井川川越し太鼓チャレンジチーム (静岡県)
  6. すみれ太鼓 (長野県)
  7. 四国中央いわくら太鼓ろうあ部会「鼓龍会」 (愛媛県)
  8. 静岡県立静岡北養護学校 北龍太鼓 (静岡県)
  9. 甲州ろうあ太鼓 (山梨県)
  - ☆ 10. 鼓友 夢光組 (のぞみぐみ) (富山県)
  - ☆ 11. 福島県ばんだい荘あおば和太鼓の会 (福島県)
  12. 諏訪響太鼓 (長野県)
  13. 恵那のまつり太鼓 (岐阜県)
  14. 伊豆医療福祉センター「どんつく」 (静岡県)
  15. 豊里学園 和太鼓 鼓粋 (大阪府)
  16. やまびこ太鼓 (福島県)
  17. 新潟市ろうあ協会万代太鼓「豊龍会」 (新潟県)
  18. 仁寿太鼓 (島根県)
  19. 富岳太鼓 竜神組 (静岡県)
- ☆は初出場チーム



# 第10回日本太鼓全国フェスティバル

## ～記念すべき第10回は青森県七戸町で開催～



(フィナーレ)

第10回日本太鼓全国フェスティバルが、9月17日(日)、青森県上北郡七戸町・七戸町中央公園屋内スポーツセンターにおいて、満席となる1,200人の観客を前に盛大に開催されました。

今大会は日本財団の助成をいただき、当財団主催、第10回日本太鼓全国フェスティバル実行委員会、青森県支部主管となり、文化庁のほか、地元の青森県、青森県教育委員会等の後援をいただき行われました。

会場周辺は、民家も少なく交通の便も良くないことから観客の動員が心配されましたが、当日は13時からの開演を待ちかねて午前中から多くの人が集まってこられました。天気も雨との予報が見事にはずれ、朝から好天に恵まれました。会場周辺に設置された物産展も大勢の人で賑わいお祭りが始まるような雰囲気が漂っていました。

そして、12時の予定を早めて開場、車で5分ほどの距離にある町役場の駐車場を一般に解放しました。会場との間をシャトルバスが送迎し、到着したバスからは多くの人々が列をつくるといった繰り返りで、開演の13時には場内は満席となりました。

公演は、主催者を代表して当財団の紀内隆宏会長の挨拶、青森県の三村申吾知事と地元七戸町からは福士孝衛町長の祝辞と続き、最後は主管・青森県の附田文哉支部長よりご挨拶をいただきました。

演奏は青森県合同チームの「四季あおもり」を皮切りに、全国から選抜された8チームが続き、総勢129名が一堂に集いました。長い伝統を誇る「秩父屋台囃子 若葉会」、女性たちの優雅かつ力強いばちさばきが印象的な「蘭導」、第8回日本太鼓ジュニアコンクール優勝チーム「輪島・和太鼓 虎之介」、鉦路の短い夏を躍動感あふれる太鼓と笛で表現した「北海道くしろ蝦夷太鼓保存会」、その後は「八丈太鼓六人会」の太鼓節が浪々と響きました。そして圧倒的なばちさばきを持つ「豊の国 ゆふいん源流太鼓」、面の迫力も鬼気迫る「御陣乗太鼓保存会」が続くと、最後は「気仙町けんか七夕保存会」がお祭

り気分を盛り上げてくれました。各々が、それぞれの地域に伝わる伝統太鼓と工夫を凝らした創作太鼓の、双方の魅力を十分に堪能できる、個性豊かなフェスティバルとなりました。

最後は、財団役員並びに出演者全員が舞台上がり、支部合同チームの演奏による「ねぶた囃子」が響く中、華やかな衣装に身を包んだ出演者たちが踊り、会場を盛り上げました。最後は手締めで締めくくりとなり盛況裡の内に終了しました。会場をあとにするお客様の顔には笑顔が見られ、フェスティバルの成功を物語っていました。

本フェスティバルを、無事終了することができたのも、青森県支部の役員をはじめ会員の皆様、そして出演団体をはじめとする関係各位のお陰と感謝いたします。

## 第11回大会は東京都で開催

第11回日本太鼓全国フェスティバルは2007年9月27日(木)に東京国際フォーラムCホールで開催を予定しております。多くの皆様のお越しをお待ちしています。



(会場の様子)

### <出演団体> 出演順9団体

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1. 青森県合同チーム      | (青森県) |
| 2. 秩父屋台囃子 若葉会    | (埼玉県) |
| 3. 蘭導            | (秋田県) |
| 4. 輪島・和太鼓 虎之介    | (石川県) |
| 5. 北海道くしろ蝦夷太鼓保存会 | (北海道) |
| 6. 八丈太鼓六人会       | (東京都) |
| 7. 豊の国 ゆふいん源流太鼓  | (大分県) |
| 8. 御陣乗太鼓保存会      | (石川県) |
| 9. 気仙町けんか七夕保存会   | (岩手県) |

## 第10回日本太鼓全国フェスティバルを終えて

(財)日本太鼓連盟青森県支部長 附田 文哉

『そんな大きいイベントが本当にできるのか?』

私が財団法人日本太鼓連盟主催の「日本太鼓全国フェスティバル」の誘致を提案した時、集まった関係者の意見はその一点に集中していました。太鼓に関しては他県からみればまだまだですが、これを起爆剤にして、一層の太鼓の普及と技術向上を図ろうと、遠く本州の北の果ての青森での開催を危ぶむ関係者を説得し、最後は『何とか成功させよう』と実施に向けて動き出すことに成功しました。また、「日本太鼓全国フェスティバル」という大きな舞台に立ちたいという青森県支部のメンバーの要望を財団法人日本太鼓連盟の方になんかえて頂く事にも成功しました。

実施に向けて動き出しましたが、大きなイベントの経験に乏しく、会場設営からチケット販売、青森県合同チームの練習まで、多くの方のご協力を得ながら何とか進めてきました。

公演前日、出演団体が順次会場に到着するにつれ、ようやく開催できるのだなと実感することができました。全ての出演団体のリハが終わり、交歓交流会を開催地の七戸町の中央公民館で行いました。ここでは、地域の方々が出演者や関係者の皆様を地元の食材を使った料理でおもてなしたということで開催し、参加した皆様に楽しんでいただきました。

公演日は千名を越えるお客様が来場し、出演団体の全国トップレベルの演奏を堪能していただき、特に

事故もなく盛会のうちに終了することができました。

公演終了後、反響が大きく、『太鼓はこんなにすばらしいものだ』と初めて知った、『来年も開催してほしい』、『太鼓をやってみよう』などの声が多く寄せられました。

この「第10回日本太鼓全国フェスティバル」を通して、開催地である七戸町だけでなく、青森県内の方に再度、太鼓の魅力を感じていただけたことに加え、青森県支部のメンバーにもさらに上を目指して技術向上に努めようという気持ちが芽生えてきました。

最後にこのような機会を頂きました財団法人日本太鼓連盟、東北5県の支部の皆様、本州の北の果てまで来て演奏して頂いた各出演団体、ご来場頂いたお客様、多大なるご助力を賜った地域の皆様に青森県支部一同御礼申し上げます。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。



(青森県合同チーム)

## 各地で教職員太鼓研修会を実施

群馬、栃木県支部主催により「教職員太鼓研修会」が実施され、多くの教職員の方々が参加されました。

### 1. 第5回群馬県教職員太鼓研修会

期 日：2006年7月29日(土)  
場 所：甘楽町文化会館(群馬県甘楽町)  
指導者：10名(公認指導員2名、助手8名)  
参加者：29名(5級27名、4級2名)  
受講料：2,000円

### 2. 第3回島根県教職員太鼓研修会

期 日：2006年8月24・25日(木・金)  
場 所：三刀屋町文化体育館「アスパル」  
(島根県三刀屋町)  
指導者：6名  
参加者：65名(5級53名、4級12名)  
受講料：1,500円



(第5回群馬県教職員太鼓研修会の様子)

和太鼓演奏 合格点? 〔雲南〕

県内教職員が実技研修

県内教職員太鼓研修会が二十三日(金)に島根県三刀屋町文化体育館「アスパル」で開催された。県内各市区町村の教職員約六十名が参加し、和太鼓の基礎から応用までを学ぶ研修会が行われた。二十三日は、昨年度に引き続き、和太鼓の基礎を学ぶ研修会が行われ、二十四日は、実技研修会が行われた。研修会では、和太鼓の基礎から応用までを学ぶ研修会が行われ、二十四日は、実技研修会が行われた。研修会では、和太鼓の基礎から応用までを学ぶ研修会が行われ、二十四日は、実技研修会が行われた。

和太鼓演奏 合格点? 〔雲南〕

県内教職員が実技研修

県内教職員太鼓研修会が二十三日(金)に島根県三刀屋町文化体育館「アスパル」で開催された。県内各市区町村の教職員約六十名が参加し、和太鼓の基礎から応用までを学ぶ研修会が行われた。二十三日は、昨年度に引き続き、和太鼓の基礎を学ぶ研修会が行われ、二十四日は、実技研修会が行われた。研修会では、和太鼓の基礎から応用までを学ぶ研修会が行われ、二十四日は、実技研修会が行われた。

和太鼓演奏 合格点? 〔雲南〕

県内教職員が実技研修

県内教職員太鼓研修会が二十三日(金)に島根県三刀屋町文化体育館「アスパル」で開催された。県内各市区町村の教職員約六十名が参加し、和太鼓の基礎から応用までを学ぶ研修会が行われた。二十三日は、昨年度に引き続き、和太鼓の基礎を学ぶ研修会が行われ、二十四日は、実技研修会が行われた。研修会では、和太鼓の基礎から応用までを学ぶ研修会が行われ、二十四日は、実技研修会が行われた。

(2006年8月26日付 島根日日新聞掲載)

# 日本太鼓が各地で関係団体に協力

## 第3回水とのふれあいin浜名湖

7月30日(日)静岡県・浜名湖競艇場にて、「水とのふれあいin浜名湖」が開催されました。

これは、(財)B&G財団が誰もが気軽に水に親しみながら、「水」に関心を持ってもらえるようにとの目的で開催したものです。スーパーキッズポート、ゲートボールゲーム、科学体験コーナーなどたくさんのイベントが行われ、なかでも、はいばら太鼓保存会(静岡県)が「見て楽しい!聴いて楽しい!」と言ってもらいたい、という抱負のもと見事な演奏を披露しました。午後には一層観客も増え、計2回の演奏を行いました。



(はいばら太鼓保存会)

## 第18回水心会夏まつり

9月13日(水)東京都・船の科学館において、水心会が親睦を目的に毎年開催している夏祭りが行われました。水心会は、当財団が助成を受けている日本財団、全国モーターボート競走会連合会などの関連団体から構成されているもので、太鼓出演は毎年恒例となりつつあります。

今年は、豊潤流ほのぼの太鼓(千葉県)が出演し、勇壮なパチさばきで夏祭りを盛り上げ、約500名の参加者の盛大な拍手をいただき、非常に好評でした。演奏終了後には、主催者である蔭山水心会幹事長も思わず駆け寄って握手を求めるほどの感動を与えてくれました。



(豊潤流ほのぼの太鼓)

## 親子いきいきランド

8月20日(水)、関連団体である(財)日本ゲートボール連合主催の親子交流プログラム「親子いきいきランド」が埼玉県岡部町にて開催され、埼玉県支部より武蔵あばれ太鼓が出演しました。ワークショップでは高野右吉支部長が秩父囃子を指導し約100名のお客様に大好評でした。また同プログラムが、9月2日(土)には愛媛県西条市において開催され、特別会員の奥伊予太鼓保存会が「飛竜三段返し・勇駒」を披露しました。



↑(埼玉県岡部町にて) ↓(愛媛県西条市にて)

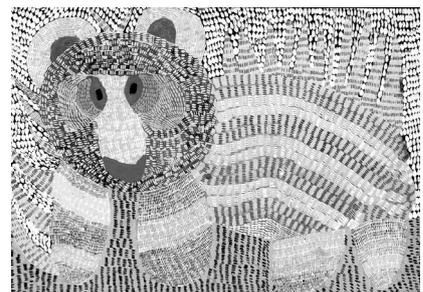


## 江戸里神楽土師流家元の松本源之助氏が 荒川区区民栄誉賞を受賞

江戸里神楽土師流家元であり当財団評議員でもある松本源之助氏が荒川区区民栄誉賞を受賞されました。これは氏の永年にわたる国内外での実績が高く評価されたものです。10月4日にはサンパール荒川にて顕彰式が行われました。松本氏の今後益々のご活躍を期待いたします。

## 「ピュア・アート・コレクション」

9月19日(火)～22日(金)、東京都港区日本財団ビル1階において「社会福祉法人富岳会 知的障害者が描くピュア・アート・コレクション」が開催されました。静岡県御殿場市にある富岳会を利用する知的障害者の豊かで感情あふれる絵画を多くの方にご覧いただきました。



(バンダ・市川文男)

## 日本太鼓と学校教育－ 26

今回は、宮城県支部長であり登米市教育委員会教育長職務代行を務めている久保泰宏氏より太鼓を通して青少年の健全育成に携わってきた道のりと、次女加代子さんとの思い出を語っていただきました。

### 「和太鼓と歩む」

(財)日本太鼓連盟宮城県支部長 久保 泰宏

大きな声で「ありがとうございました。」と100人の声が天に届く。フルスタ宮城で総勢100人の初めての太鼓演奏。昨年プロ野球、東北楽天ゴールデンイーグルスを応援しようと練習に練習を重ね今年8月16日にやっと思いをかなえました。

太鼓セット2分、演奏5分、撤収4分、厳しいスケジュールの中スタッフの皆さんのご協力により子供達の夢を実現し、太鼓を愛する楽ファンにも喜んでもらうことができました。

私は青少年の健全育成を目的に太鼓を始め、東北で最初の横綱・第3代横綱丸山権太左衛門関の生誕の地に住んでいることから、町起こしの一環としてチームを平成元年7月「米山丸山太鼓」と名付けました。

当時は太鼓が少なく私がドラマーで使っていた「コンガ」を二つ切りにして皮を張り、抱桶太鼓に作った竹をリズム楽器にして皆で打ったことから始めました。出演の要請もなく、講演会に参加したり大会、フェスティバルを見に行ったり、近くの太鼓グループを交流したり、指導をお願いしたり、とにかく皆で作りに上げてきた丸山太鼓です。

やっと18年の歳月をかけて築き上げ、数々の大会に参加できるようになりました。しかしそんな中、私に最大の危機が起こったのです。

我が家は、長男、長女、次女と三人とも太鼓のメンバーでしたが、平成14年4月次女が通学途中、交通事故で還らぬ人になってしまいました。なんで、なんで、仕事も太鼓も順調にきたのに！葬送太鼓で送ってもらいましたが、太鼓のメンバーは涙、涙で辛い葬儀となりました。太鼓は楽しい時だけの太鼓でなく、このように辛いときの太鼓もあることをメンバーは感じた事でしょう。それからは仕事も太鼓も手につかず、私は酒に手を伸ばし、酔いつぶれて寝る日々が続きました。そんな時、太鼓の仲間、娘の友達、地域の人達、たくさんの人に支えられました。太鼓の音にも助けられました。心の底にズシンズシンと響いてくる音、加代子が私を励ましてくれるようでした。ここに加代子が太鼓への思いを綴った文があるので一部掲載したいと思います。

「いよいよ丸山太鼓の番だ。太鼓をステージに並べてみんな位置についた。先輩たちに『声出してね。』と、声をかけられた。私は、こみ上げてくる緊張感をおさえるように、『はい。』と力を入れていった。

ドンドン。力強い太鼓の音が会場の奥まで鳴り響く。太鼓を叩いている時は、夢中で何も考えられなかった。『しまった。』休むところなのに、間違えてたたいてしまった。顔が赤くなって一瞬恥ずかしくなったが、先輩たちの元気な声と迫力のある太鼓の音にカバーされた。私はいつも強弱を忘れてしまう

ので、『強弱、強弱。』と、心に言い聞かせながらたたいた。

休む場所になると、ばちの先が震えているのが分かった。練習のとき、よく父が『ばちの先に力を入れる。』と言っていたことを思い出した。私は、歯を強くかんでばちの先に力を入れた。そして、先輩に負けないように、私も一生懸命声を出した。『セエイ、セエイ。』会場は太鼓の響きと、私達の声でいっぱいになった。

こうして、皆さんに支えられ、加代子に見守られて事故の半年後、平成14年10月「和太鼓フェスティバル in とめ」を盛大に行うことが出来ました。

人間は弱いもので一人では何も出来ず、いろんな人に支えられて生きているという大切な心、命の大切さなど今まで見えなかった物がいろいろ目に付くようにもなりました。

私は、指導者として日本文化の大切な心「礼節」を一人一人の子どもたちに培ってもらいたいと願っています。太鼓は動物の命を力としてもらい、木の命を年輪として響かせます。「ありがとう。」と感謝の心をもって太鼓を打ったときに、鼓動となって人間の心に響くのではないかと思います。

将に、「天心」天に響く音、太鼓の鼓動です。生命の尊さを体感、体得できるのが太鼓です。命を与えてくれたものに対して礼節をわきまえた心で太鼓を打たせてもらっているという気持ちがなければ音は響きません。そのためには、日常の所作、礼儀作法、言葉遣いを大事にしています。もらった命と自分の命を響き合せて初めて他者に感動を覚えさせてくれるのではないのでしょうか。日夜そうなることを願い日々練習に励んでいます。

魂を打つと言われる太鼓文化の大切なものを、これからも伝えていくとともに、皆さんと一緒に頑張っていくつもりです。そして、次女が願っていた「丸山太鼓のすばらしい音を、日本中の人々、いや世界中の人々に聞いてもらいたいと思っています。」という言葉に胸に太鼓を響かせていきたいと思っています。



(太鼓に親しまれている加代子さん)

# 1級公認指導員への道

認定制度制定以来、技術認定員5級から初めて1級公認指導員に昇級した高島、安藤両氏に、これまで太鼓とともに歩んできた道を語っていただきました。

## 「道のり」

岐阜神代響太鼓(岐阜県) 高島 奈々

鼓友の皆様、諸先生方の力添え、励ましのおかげで「1級公認指導員取得」という目標を成し遂げることができました。本当にありがとうございます。

振り返れば妹と共に太鼓と出会って、約10年程になります。太鼓を習い始めて2、3ヶ月過ぎた頃に当時の全日本太鼓連盟主催の全国講習会に参加し、更に太鼓の魅力に引き込まれ、この世界にのめりこんでいきました。その翌年に「技術認定員制度」「公認指導員制度」が導入されました。駆け出したばかりの私(達)にとってとてもいい機会でした。しっかり基本を学ぶことも、太鼓に関する知識も学ぶことができました。今では、大切な財産となっています。

技術に関しては、妹、笑美に感謝しています。技術においての不得意な部分を妹に助けられてきました。姉妹だったから出来たこと。本当に感謝しています。“ありがとう”

さて、そこからが私(達)にとっての試練の始まりです。実際に「講習内検定者」として現場に立つようになったとき、何をどうしたらよいのか、自分がいる位置がつかめずとまどいがありました。が、諸先生方に指導を受けたおかげで徐々にどう動いたらよいのか見通しがついた頃、3級公認指導員を頂きました。

しかし、ここから、もっと大きな壁にぶち当たりました。大きな問題は、大勢の前で話をすることができなかった為、緊張して声が出ず、何をどう説明してよいのかわからなくなってしまいました。そのとき、先生方に「教えに行っているチームがない。だから、場数を踏みなさい。」と言われました。確かに、と思い、受講できる範囲の支部講習会、全国講習会をほとんどといっていいほど参加することにしました。その甲斐あって、教えるチームが1つ2つと増え始めました。

一時は、“私にはやはりむりだったのかも…”と、気持ちが沈み諦め断念しようかと悩んでいたとき、周りの人達から「いつも、高島姉妹を目標に頑張っています。」と声を掛けて頂いたことがありました。“目標にされるほど立派じゃないのに”と、恥ずかしい気持ちでしたが、その言葉で再度諦めかけていた気持ちに火がつかしました。“立派な人間じゃないけど、目標とされているのであれば別の方法で導くことが出来るのかも、どれだけ期待に応えられるか分からないが、やると決めたことなのだから最後までやり遂げよう”と。

3級から2級、さらに1級へと続く道はそう甘くはない道のりでした。

今は同じ説明をしても時として反応はその都度違うのだから、戸惑いながらも一生懸命対応すること

を心がけています。

大変苦勞してきましたが、今日までの積み重ねが樹となり枝となり葉となり、そして、実になったのだと思います。

よく、小口大八先生の話の中で、「親・兄弟、同じ志を持つ同士との絆を大切に、熱い血を」と言われます。本当にそうだと思います。

目標を達した今、喜びたい気持ちの反面、「1級公認指導員」という責任の重さに挟まれています。

この重圧に押しつぶされないように、新たな目標を持ち精進していきます。「1級に昇級させて良かった」と言われるように…。

## 「日本太鼓普及のために還元していく道」

巢南富有太鼓(岐阜県) 安藤 王子

1級公認指導員になり、私が太鼓をはじめたきっかけは何だったのか、この道を一生懸命に進んできたのは何故なのか、振り返ってみた。

私が太鼓をはじめたのは、赴任先の小学校で突然、太鼓クラブが発足することになり、担当することになったからだ。しかし私は、太鼓の演奏など1度も見たことがなく、太鼓クラブがスタートするまで、町と地元保存会が主催する太鼓教室に10回通い、構え方や桴の握り方から覚えた。その後、保存会の方々にお世話になりながら、必死に太鼓クラブを担当したのが私と太鼓との出会いである。それからあつという間に、子供たちへの太鼓指導の機会が増えたり、演奏の機会が増えていった。そして、もっと太鼓を上手く打ちたいと思うようになった頃、認定制度がスタートし、全国講習会に参加し勉強するようになった。当初は、太鼓を上手く打てるようになるために「太鼓を学ぼう」と参加するようになった講習会だった。しかし、素晴らしい先生方や仲間に出会い、講習会から得たことをチームに帰って伝えたい、子供たちに伝えたいという気持ちになっていった。また「太鼓で学ぶ」こともたくさんあり、それも伝えなければならぬ大切なことだと考えるようになり、この道を頑張っただけで進んできたように思う。

今までたくさんの壁にぶつかったり、悩んだりしながらもこの道を進んでこられたのは、太鼓で知り合った方々に導かれ、助けられながら、太鼓の魅力に引き込まれてきたからである。今後も自分自身の技術力、指導力、人間性を高めるとともに、日本太鼓の後継者たちに太鼓本来の魅力を還元していけたらと思っている。

これまでご指導、ご援助いただきました(財)日本太鼓連盟の皆様、先輩公認指導員の先生方、講習会で一緒に頑張ってきた仲間たち、そして各講習会でお世話になったスタッフの皆様から心から感謝申し上げます。今後とも益々錬磨していきたいと思

